

## 羽ばたく

日曜日掲載

豊田シティバレエ団が先月4日、豊田市の市民文化会館大ホールで行った公演「くるみ割り人形」で、主役のクララを演じた。全幕通しての主役は初めてだったが、堂々とした踊りに大きな拍手が起きた。「舞台をみんなで創り上げる中でセンターに立つ責任感をすごく感じた。今まで踊った中で一番楽しかった」と言う。同バレエ団を主宰する諏訪等さん(66)が校長を務める豊田バレエ学校に今年8月から在籍しているが、それまでの身の置き所は頻繁に変わってきた。

豊田シティバレエ団公演で主役

脇田 紗也加さん 17(春日井市)



に通学。英語で授業を受け、たことが、バレエ留学するうえで役に立つことになる。友達に誘われてバレエ教室に通い出したのは、6歳の時だった。進級テストも不合格になるなど「ぱっとしない存在だった」と振り返るが、名古屋で開催されたコンクールに中学1年の時に初出場し、教室の先生に無理だと言われた予選を突破して自信をつけた。その後の行動力は並みでない。自分でインターネットを使って留学先を探して手続きをし、2009年9月に入学。両親は反対はしなかったが、「生きて帰って」言われたという。最初の2週間だけ現地に母も来てくれた。「あのとき、よく留学を許してくれたものだ」と今は思います」と話す。上達しないと帰国してから顔向けできないというプレッシャーや習慣の違いにストレスを感じ、2か月後に髪の毛を抜けて、ホームステイ先の家族を驚かせた。

10年6月、首席で卒業して帰国。翌年2月のベルリ

## 経験重ね海外の舞台へ

豊田バレエ学校長 諏訪等さん 66

「彼女はいろんな学校のよい点を吸収し、挫折を乗り越える強さがある。小柄だが、パートナーの男性からすれば軽くてリフトが楽にできるプラス面があり、背丈は気にするなと本人に言っている。公演ではプロダンサーに負けない機敏で軽やかな動きをした。笑顔もよいので先が楽しみだ」

ン国際コンクールに挑み、ナダ、12年2月、今年6月ジュニア部門最高の金賞を受けた。「直前の舞台稽古でガタガタの出来だったのに、まるで神が降りてきたかのように踊れた」という。11年9月、12年1月にカ

今は豊田バレエ学校で毎日約7時間の練習をしながら、高校卒業資格を取るため通信教育を受けている。バレエに反対だった会社員の父、裕之さんが「くるみ割り人形」を見て評価してくれたのが励みになった。「いろんなコンクールに挑戦し、ゆくゆくは海外のバレエ団への入団を目指したい」と先を見据えている。(野矢充)

豊田シティバレエ団 東京バレエ団のダンサーだった諏訪等さんが1974年、出身地の豊田市にバレエ教室(現エトワールバレエシアター)を、また、95年にはバレエの練習に専念しながら通信教育で高卒資格も取得できる「豊田バレエ学校」を設立。バレエ団(88年発足)の団員は、これらの教室や学校の生徒を基礎に約30人いて、国内外で年数回の公演をしている。